

⑬の精神

皆さんお元気ですか？先月行われた全校集会の時、体育館に色とりどりの⑬の旗が掲げられていました。

何時の頃からか本校を表すものとして⑬が使われるようになりました。きっとデザインをされた人には⑬の思いがあったのだと思いますが、私は私で勝手に解釈してみました。今日は皆さんと一緒に、⑬について考えてみたいと思います。

⑬は、本郷特別支援学校のほ。きっとこれが一番、本校のシンボルマーク。

⑬は、ほっとする場を表しています。誰もが安心できる本郷特別支援学校。子どもにとっても、保護者にとっても、働く教職員にとっても、地域の方々にとってもほっとする場であり続けたいと思います。

⑬は、本物の教育を目指す本郷特別支援学校のほ。本物とは何でしょうか？ うそ偽り、ごまかしがないこと。真理を追究する不断の努力があって初めて本物が見えてきます。本物の教育は、出会った一人ひとりの子どもの声にならない声を聴き取り、子どもの思いや願いを受け止めることができ初めて可能になります。先生方には、これからも本物の教師を目指して欲しいと思います。

⑬は、本気で児童生徒に向き合う教職員の心意気。本物に通じるものがありますね。

⑬は、ほめ上手な保護者の心意気。子育ての基本はほめ上手。子どもだけでなく、教職員も、ほめられるとさらに張り切る特性があります。

⑬は、誉れのほ、本郷の教職員としての誉れは、卒業生が立派に社会人として、個々の力を発揮し、自分らしく活躍してくれている姿です。卒業生が社会に出て、ほめられることほど学校関係者として名誉なことはありません。

⑬は、ホーム（家）としてのほ、本郷特別支援学校は卒業生にとっても、保護者にとっても、教職員を含めた全ての人にとっても心のマイホームとして永遠に輝き続ける存在でありたいですね。

⑬は、放課後支援のほ、はまっ子を産み、育て支える本郷特別支援学校。はまっ子は、多くの方々の支えがあって成り立っています。4年前の開級以来、ボランティアを続けていただいている方が大勢いらっしゃいます。ありがたいことですね。

⑬は、宝石のほ、本校の子どもたち一人ひとりは、輝く個性と可能性を秘めた宝石です。教育という磨き石で磨けばさらに輝きが増します。世界に一つしかない素晴らしい宝石がますます光り輝くことを願っています。

⑬は、炎のほ、全ての教職員が教育に抱いている情熱の炎。何時までも、どこまでも限りなく燃え続ける炎です。

⑬は、微笑みのほ、子どもに対するときは、必ずしもいつもにこにこばかりしてられないときがありますが、きびしく指導するときも、優しく心の微笑みを持って接したい。そして子どもが返してくれる微笑みは、無上の喜びを私たちに与えてくれる。
・・・・・・・・・沢山の⑬があふれる学校にしていきたいですね。